

ミャンマー民主化を支援する信州の会 ニュース

Shinshu Supporting Group for Democratization in Myanmar
မြန်မာနိုင်ငံတော်သို့ အထောက်အကူပြုရန် ရှင်းရှင်းအသင်း

第5号 2023年11月1日 発行



撮影：新町智哉氏

子どもたちの未来

- ・ ミャンマー民主化を支援する信州の会 第2回総会・報告会
 - 報告1 ミャンマーとエンターテインメントへの希望 新町智哉氏
 - 報告2 タイでのミャンマー避難民の人道支援活動 井本勝幸氏
- ・ ミャンマー世論調査結果
- ・ 報告集会「ミャンマーに平和と自由を」
- ・ ミャンマー支援募金寄付報告
- ・ アジア子ども交流支援センター「ミャンマー衣料支援」
- ・ ミャンマー交流フェスタ in 信州を開催
 - 10/29(日) 長野市・ながの表参道セントラルスクエア



Shinshu Supporting Group
for Democratization
in Myanmar

ヤンゴンの子どもたち

軍事クーデターとコロナ禍によって、学校が閉鎖。教員も CDM に多数参加して、教育の現場にも影響が及んでいます

※CDM(市民不服従運動):国軍に抗議して職務を放棄する抗議行動。クーデター以降、様々な職場で発生。



新町智哉氏の SNS で、発信されるミャンマーヤンゴンの路上で花を売る子どもたち。新町氏は彼らから 500 チャットで売られる花を倍の 1000 チャットで買い、バナナをプレゼントする「フワラー＆バナナ」の活動に取り組んでいます。

撮影：新町智哉氏

日本で働くミャンマー人 37.7%も増加

クーデターから 2 年 8 ヶ月が経過して、ミャンマー情勢についての報道が減っていますが、市民への弾圧は続き、国軍と民主派との間での戦闘が各地に広がっています。各国の働きかけも功を奏さず、民主的な選挙、再度の民政移管への糸口も見いだせない状況に置かれています。

長野県内のミャンマー人も倍増

厚生労働省が発表した「外国人雇用状況」によると、2022 年 10 月末現在、47,498 人のミャンマー人が日本で就労しています。2021 年[34,501 人]との比較で 37.7%の増加で、国別の増加率で 2 位となっています。長く続いた軍政が終り、民主化の花が開きつつあったミャンマーで突如起こったクーデターで、多くの方々が国外に出る選択をしています。長野県内でも、2022 年 12 月末現在、477 人と前年[249 人]に比べ 228 人増と倍増しています。

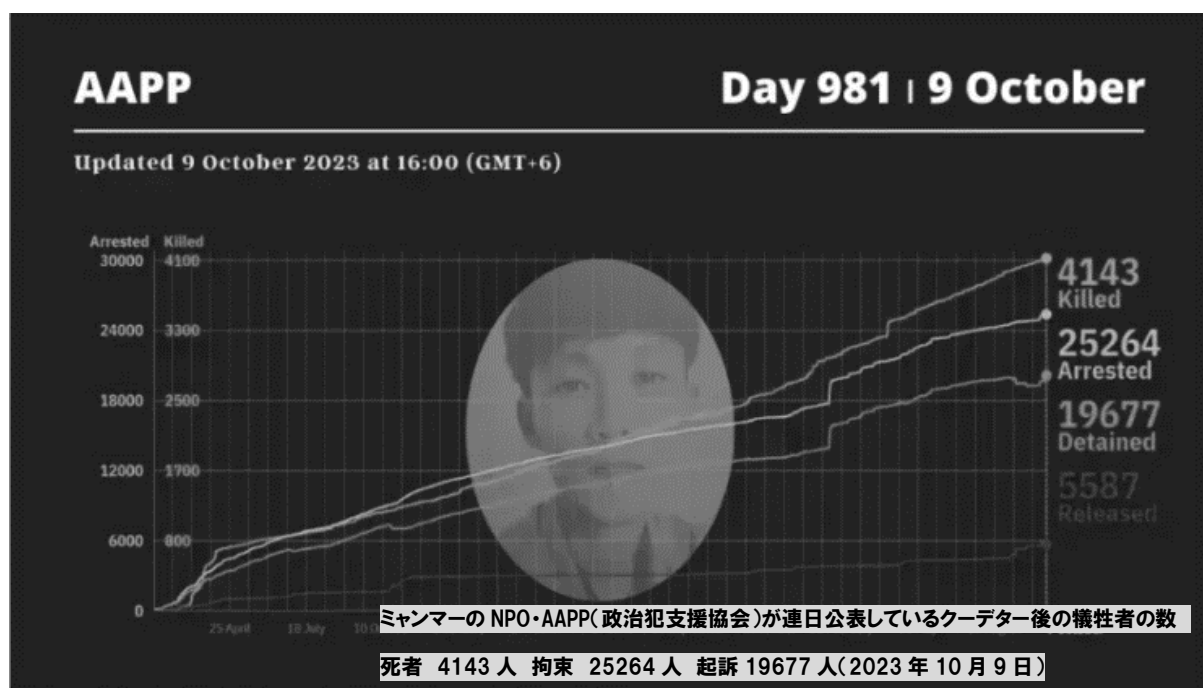
10/29 ミャンマー交流フェスタ in 信州開催

ミャンマー民主化を支援する信州の会は、ミャンマーを離れて長野県内に暮らすミャンマーの方々とも連帯して活動していきます。10 月 29 日(日)には長野市・ながの表参道セントラルスクエアを会場にして「ミャンマー交流フェスタ」を開催します。「ミャンマーを忘れない」ために、ぜひご参加ください。信州からミャンマーにエールを送りましょう。

学校に通えない子どもたち

親の貧困などから、十分な学習機会を得られない子どもたちがもともと多くいたミャンマーで、コロナ禍とクーデターによる混乱から学校が閉鎖されました。2021 年 5 月から 2022 年 4 月末までの 1 年間に学校に通えなかった子どもたちが 780 万人に達したと報告されています(2022 年 6 月 国際 NGO セーブザチルドレン発表)。
ミャンマーの人権状況を担当する国連人権理事会のアンドリュース特別報告者は、「ミャンマーの子どもたちが「失われた世代」(ロストジェネレーション)となることを防がなければならない」とする声明を出しています。クーデターは子どもたちの学び、将来の選択にも影を落としています。

ミャンマーを忘れない 信州からミャンマーへ



わたしたちに何ができるか？ —第2回総会代表挨拶—

ミャンマーのクーデターから2年半が経過しますが、いい方向には進んでいない状況です。時間が経過し報道の数も減って、わたしたち日本人にとって遠いことになってきています。ミャンマーは仏教国であり、仏陀の非暴力の教えをずっと守ってきたお国柄ですが、残念ながら若者が武器をとって国軍と闘わざるを得ないという内戦の様相を呈しています。やむにやまれず軍事行動に出ているのだと思いますが、ウクライナの状況と同じく、力によって力を制するという対立の構図がますますはっきりしてきています。日本もおそらく例外ではないと思います。敬虔な仏教徒でさえも、武器を取らざるを得ないという本当に悲しい現実が出てきています。しかし、この人類全体の文明を考えますと、力の論理によって地球がおさまるかという、おそらくそれは無理だろうと思います。仏陀やイエスが仰ったように、慈悲の力、共生の力、力の論理ではなく、共に生きるという共生の論理、我々はそれに目覚めなければ、おそらく人類自体が減びていくだろうと思います。その時間もあまりないのではないかと最近はおもっています。わたしたちはミャンマーから離れているわけですが、わたしたちに何ができるか？ 現実にはミャンマーに身を置いている方のお話をきいてわたしたちに何ができるかを考えていきたいと思っています。

報告1 新町智哉氏（ミャンマーエンターテインメントプロデューサー）

ミャンマーとエンターテインメントへの希望

ミャンマーから一時帰国中の新町智哉氏に、クーデター後のミャンマーの現状について、エンターテインメントに携わる日本人という視点から報告いただきました。新聞・テレビなどの既存メディアの報道からは分からないヤンゴンの日常のほか、子どもたちに絵本を贈るクラウドファンディング、ミャンマー人を対象にした世論調査などの独自の取組み、最後にこれからのミャンマーとエンタメへの希望について語っていただきました。

■ミャンマーの可能性を知った 2013 年

起業した当時、ミャンマーのことは何も知りませんでした。これからはミャンマーだと若い起業家の間で話題になっていましたがミャンマーへの移住には躊躇しました。しかし 2013 年に視察に訪れて、可能性を感じる出会いをたくさん得られました。

■移住、そして起業

それから約 8、9 カ月準備をして、2014 年 7 月 19 日にミャンマーに移住しました。後日知ったのですが、7 月 19 日は建国の父と言われるアウンサン暗殺の日として祝日（「殉難者の日」）にされていて、到着した日は現地の方々に非常に歓迎されました。

もともと自分自身がプレーヤー志望だったこともあり、その経験を活かして、ミャンマーの若者がエンターテインメントの世界で頑張れるようなシステムを日本から取り入れられたらいいなと起業しました。

■短編映画を映画祭に出品

2017 年に『一杯のモヒンガー』という短編映画を製作しました。日本人が企画して、ミャンマーの映画祭に出してみようと試みました。ミャンマーのワットン映画祭にノミネート・上映され、国を越えて笑い合えるという作品をつくることができました。しかし、こうした実績といえるものの裏で 20 くらいの失敗をし

ています。特にコロナ禍での経営は大変でした。次はこうしたいとか、今はこれができるとか模索する日々でした。コロナでミャンマーも大きな打撃を受けましたが、ミャンマーの友人たちを見ていると、これからまた上がっていくという夢があると感じました。

■2021 年 2 月 1 日のクーデターに遭遇

1 月 31 日の夜もコロナが開けたらなにができるかと話していました。その翌朝にクーデターが起きました。200 万～300 万という人が街頭に出ました。日本大使館からは「デモには決して参加しないようにしてください」という触れ込みが出ていました。「一杯のモヒンガー」のカメラマンとスタッフは街に撮影に出ました。この時の映像や写真はメディアに出したことはないで今日初めてお見せします。



▲新町氏が撮影したデモ達と向かい合う治安部隊



新町智哉氏 プロフィール

兵庫県明石市生まれ。映像プロデューサー。現在日本一の出生率を誇る街・明石で幼少期から 23 歳まで過ごす。2014 年よりミャンマーへ進出。プロデュースした短編コメディ映画「一杯のモヒンガー」(2017)がワットン映画祭(ミャンマー)にノミネート。起業家・歌手・俳優としても活動。これまでにミャンマーで 20 程度の事業を企画・準備・立上げ・運営するがほぼすべてに失敗。懲りずに新たな試みの矢先に、コロナ禍・クーデターによって大打撃。現在もさまざまな事業企画や映画「エッチポイント」の企画を準備中。2023 年夏にはヤンゴン市内に「日本語学習センター」を設立し校長に就任。

← プロフィール写真はクーデター前にミャンマー風に撮影したもの



▲新町氏の会社スタッフが撮影したデモの様子

■在ミャンマー日本人コミュニティ

在ミャンマーの日本人は、クーデターにはできるだけ触れないようにしていました。状況が見えないなかで、行動は控えるという雰囲気もあったのですが、積極的に発信したり議論したりということはなかったのではないかと思います。海外の日本人はミャンマーに限らず、世界の紛争地ではそういうふうにしがちだと思いますが、ぼく自身もそうでした。

■街頭に出ていくミャンマー人たち

ぼくの会社では、ミャンマー人の社員が 20 人くらい働いていましたが、彼らの行動を全く予想できずにいました。誰一人欠けることなくデモに出ていきました。社員の自由だと思っていたのですが、日本人である自分には彼らを 100%理解できていませんでした。それでも彼らがきっと正しいのだろーと思っていました。

■抗議するヤンゴンの人びと

なにが起きていたのかよくわかりませんでしたが、私のアパートから見下ろせる大きな交差点を、この日から定点観測のように撮影するようになりました。昔からミャンマーでは、厄払いとして鍋などを叩いて音を出すという風習があるのですが、夜 8 時になるとクーデターに抗議するという意思表示として行われていました。

クーデターからしばらくは、家からほとんど出ていませんでしたが、デモをしている人たちがどんな思いで参加しているのかを自分の目で見ておかなければ

と思って、2 月 15 日に外に出ました。既にデモ隊に犠牲者が出ていた時期でした。お祭りのようでしたが、もしかしたら自分にもなにかあるかもしれないという緊張感がありました。

■メディアへ顔を出すこと

2 月 28 日の午前中、自分の部屋から、治安部隊がデモ隊に発砲する様子を見ていた時でした。威嚇だったのか、偶然だったのか、5 階に住んでいる自分の部屋に催涙弾が撃ち込まれました。カメラを回していたので、軍人が押し入ってきたらと考え、とにかくカメラを隠さなきゃと、風呂場のバケツの中に入れました。

その後、テレビ東京の取材が最初だったと思います。顔や氏名を出すか確認されました。顔を出す、出さないの違いをきいてみました。「現地の日本人 A さんと新町智哉さんという人間が発信するのでは波及効果として変わってきます。しかし最後に決めるのは本人です」と、それを聞いて顔を出そうと決めました。

■地道な発信が連載に

地道に「note」（文章等を配信するウェブサイト。運営者は note 株式会社）でミャンマーのことを発信していたら、「ワールドボイス」（ニューズウィーク日本版サイトで世界各地のブロガーが連載している）で連載することになりました。

既存のメディアまかせにしないほうがいいと思っています。これもひとつのジャーナリズムなのかもしれませんが、エンターテイナーという観点からミャンマーを伝えたいと発信しています。

■自己犠牲ではなく

クーデター以降にミャンマーで活動するひとのなかでは変わっているのかなと思います。自分を犠牲にしてまでとは思わず、自分の思い描いたやりたいことが結果的にミャンマーのためになったらと思って活動しています。

ニューズウィーク日本版「World Voice」
「ミャンマーでエンタメとクリエイトする日々」

www.newsweekjapan.jp/worldvoice/shimmachi/

ニューズウィーク日本版
Newsweek
WorldVoice 現地発・最新情報・多言語・多視点のデジタルプラットフォーム



■小さなことでも続けること

当時、大学生だった石川さんを捕まえてネットラジオの配信を始めました。世間からみたら小さなことでも、とにかく続けようと決めました。これまでミャンマーからの発信をやめてしまった方をたくさん見てきました。無理はしないけど続けていくこと。言いたいことを言うということ。

■ミャンマーの子どもに絵本を贈るクラファン

4つ紹介したいことがあります。7月15日までクラファンを呼びかけています。支援者も100人を超えてありがたいです。これまでのミャンマー支援とは少し異なって、ミャンマーの子どもたちに絵本をプレゼントするというものです。クーデター以前から試みていた絵本「えんとつ町のプペル」（西野亮廣 著）のミャンマー語版を完成させました。プロの方に翻訳を頼み、ミャンマーで出版する権利も買いました。現地では絵本も高価で買えないこともあり、支援者の方には絵本を贈る権利を2000円で買っていただくというものになっています。※その後、無事達成

■フラワー&バナナ

ヤンゴンの路上には花売りの子どもたちがいて、500チャット（ミャンマーの通貨）で花を売っています。それを倍の1000チャットで買ってあげて、バナナをあげる取り組みです。催涙弾を撃ち込まれた自宅近所の果物屋のおじいさんからバナナを購入して、小さな経済ですが回しています。ひとりで始めたことで、密かにやることも考えたのですが、オープンにして支援を募ることにしました。100円支援して頂いたら、バナナを1本と1000チャットで花を買ってあげるという仕組みです。ありがたいことにたくさんの支援をいただいています。この子たちにも絵本を届けたいと思っています。

■ミャンマー世論調査

日本ではどの政党を支持しているかという世論調査はよく目にしますが、ミャンマーにはまったくありませんでした。そもそもミャンマーの方が何を考えているのか知ることが必要だと思い、そういった調査はないかなと探していました。国連がやっていたら、それを広めようとか。しかし、いろいろな制約があったのか世論調査は行われていませんでした。仕方がないので自分でやってみよう…そんなに難しいこと、大変なこととは思っていませんでした。しかしミャンマ

ー人の友人に相談すると、全員に「やめとけ」と言われました。かなりまじめなトーンで「殺されるからやめておけ」と。シリアスな話題になってしまうため、以降ミャンマー人の友人には相談せずに、ひっそりとインターネットで行いました。4000人くらいのデータを集められました。貴重なデータだと思いますので、今後伝えていくためにがんばらないといけないなと思っています。この結果は今もオープンにしているので、ぜひご覧ください。

【ミャンマー世論調査のリンク】



第1回ミャンマー世論調査結果報告

【ミャンマー世論調査機構(MOPR)】

<https://www.newsweekjapan.jp/worldvoice/shimmac/hi/2023/02/1mopr.php>



第1回ミャンマー世論調査グラフデータ全公開

【ミャンマー世論調査機構(MOPR)】

<https://note.com/tomoyaana/n/n9384da21828a>

■映画「エッジポイント」の企画

今、ミャンマーで映画をつくることは難しいのですが、映画の企画を練っていて、海外の映画祭に出品したいと考えています。映画といっても何億円もかけてつくるといような壮大な話ではなく、低予算でもグローバルに成功した映画というのはたくさんあります。どの映画祭なのかわかりませんが、いい結果を出したいと思っています。ミャンマーのエンタメに関わる者として、ミャンマーの現状が少しでもよくなるように、ミャンマーの声をもっと届けられるように、そして、ミャンマーのエンターテインメントがこんなに素晴らしいんですよということを届けるために、もうすこしだけ頑張れたらいいなと思っています。

質 疑 応 答

質問1：若い人たちはみんなヤンゴンを出て、周辺部で闘っているイメージがある。若い人たちはどんな活動をしているのか？

新町：ミャンマーにはたくさんの少数民族があり、国軍とは別に自分たちの軍隊を持っています。しかし最大民族であるビルマ族には自分たちの軍がない。ビルマ族の軍が国軍にあたるわけですが国軍は信用できない。ビルマ族の若者たちは、国軍と闘うため、少数民族の武装勢力のところに軍事訓練を受けにっています。少数民族の若者は、自分たちの民族の軍に入って国軍と闘うというひともいます。身近なところでも、昔から関わりのある若者がPDF (people defense force) という、国を守るために国軍と闘うんだと結成された軍に入ると連絡をくれて衝撃を受けました。「ヤンゴンに住む日本人」の友人が「故郷を守らないといけない」と言って軍に入り闘っています。

質問2：軍側についている若い人はいるのか？

新町：ぼくが知る範囲ですが、クーデターのあと、軍に入るとい人はいないと思います。ただ今に限らず、国軍は子どもをさらうようにして、洗脳教育を行っているそうです。しかしヤンゴンでは耳にしませんし、もしそうなったら国外や少数民族の自治区に逃げ込んだりすると思います。

質問3：子どもたちの学校や会社や市場など、日常生活はどのように行われているのか？

新町：クーデター後、改めてわかったのは、紛争状態になっているところで、人々は普通に生活していることです。ミャンマーだけではなく、シリアやウクライナでも、日常生活は行われています。特にミャンマーの特殊さというなら、僕が住んでいる最大都市のヤンゴンでは、軍対軍の大きな戦闘は起きていません。ヤンゴンは落ち着いていると思います。しかし、毎日どこかで爆発が起こります。理由がわかるものもあればわからないものもあります。それは学校に行く、市場に買い物に行くという場所で爆発は起きます。そしてどこかで毎日誰かが亡くなっています。いわゆる不審死で、市民側にも軍側と言われている人にも死者が出ています。ヤンゴンでも毎日必ず死者が出ています。また拘束者も後を絶ちません。夜、突然、軍なのか警察なのかわからない人が来て、その家の家族のお父さんだったり、お母さんだったり、娘さんだったり、息

子さんだったりを罪状もなく連れていかれます。あとからなにがしかの罪を与えられて、今は刑務所に入れているということがわかります。ひどい場合は、昨日捕まえたお前の息子は死んだので、遺体を引き取りに来いと。引き取りにいったら金銭を要求され払えないなら遺体は返さないとか。そんなことがヤンゴンでもほぼ毎日起こっています。

軍対軍という大きな戦闘が起こっていないヤンゴンの日常のなかにそのような非日常が起きているという非常に特殊な状況があることを伝えたいです。

質問4：日本はミャンマーにとって最大の投資国であり、クーデター前には多くの企業が進出していたが、ミャンマー人から日本人はどのように見られているのか？

新町：この2年半、日本の人を信じたいと思っていますと感じます。もちろん失望はあると思いますが、それを表明する際は「日本政府」という言い方で、特定の日本人を指すようなことはあまり聞きません。ミャンマーの人たちの気持ちに今の日本が応えられているかどうか…申し訳ない気持ちがあります。ぜひその期待に応えられるようにしていきたいし、日本政府としてやってほしいとぼく個人も思っています。

質問5：ミャンマー語の歌や詩など聞かせてほしい。

新町：(壇上でミャンマー語の歌を新町さんがアカペラで歌唱) ミャンマーの友人がつくった歌で、結婚式で歌いました。チンローバという意識すると「好きだから」という情熱的な恋愛の歌です。タンケイ (Htam Kay) というシャン族出身の友人がつくった歌です。彼も1年くらいは無事でしたが、22年1月に突然、軍から指名手配を受けたので、シャン族の自治区に逃げています。潜伏しながら今でも発信活動を続け、なんとかミャンマーがよくなるようにと彼なりにミャンマー国内で食料支援の活動などしています。

■最後に～大切なことは無理をしないこと

この2年、なかなか思う通りにいかず、なぜミャンマーばかり、こんな大変なことになってしまったらうと思っていました。ウクライナなど世界各地でも大変な思いをしている人達がたくさんいます。

日本人として何ができるんだろう、もっと何かしなくてはと考えてしまいましたが、やはり大切なのは無理はしないということ、自分らしく、その人なりに、関わり続けるということなのかなと思っています。

■またみんなでエンタメを楽しめるように

おそらく支援活動のなかでは特殊で、エンターテインメントは不要不急と言われてしまうと辛いのですが、これまでミャンマーで沢山の人のを見てきて、クーデター後も、彼らにエンタメがなくなった瞬間はないと自信をもって言えることです。

エンタメの為に国をよくしよう、またみんなで楽しめように今をがんばろう、というのがぼくかなりの支援活動でこれからも続けていきたいです。ぜひ今後も僕の活動も含めてミャンマーとミャンマーのエンターテインメントに注目していただけたらと思います。



▲ヤンゴン子どもたちにミャンマー語の絵本『えんとつ町のプペル』をプレゼント(新町智哉氏の SNS から)

■■■■新町智哉氏が取り組んだ世論調査■■■■

第1回ミャンマー世論調査 結果

期間:2022 年 11 月 11 日午前 11 時 11 分
~2023 年 1 月 11 日午前 11 時 11 分 11 秒

実施団体:ミャンマー世論調査機構(MPOR)

調査方法:インターネット

広報:主にフェイスブック上で告知・募集

対象:国内外のミャンマー国民

回答数:4,051 有効回答数:3,906 件

※データ不十分のため 145 件を除外

1) 分析対象者の年齢

- ・ 10 代 4.6%
- ・ 20 代 11.9%
- ・ 30 代 23.8%
- ・ 40 代 20.8%
- ・ 50 代 22.6%

- ・ 60 代と以上 15.2%
- ・ 回答しなかった 1.2%

2) 分析対象者の信仰

- ・ 仏教徒 79.9%
- ・ キリスト教徒 3.9%
- ・ 無宗教 3.2%
- ・ イスラム教徒 1.9%
- ・ 回答しなかった 11.1%

3) 分析者の性別

- ・ 男性 85.8%
- ・ 女性 13.1%
- ・ 回答しなかった 1.1%

1. 軍事評議会が実施準備をしている 2023 年選挙についてのミャンマー世論

1.1) 支持するか否か

- ・ 支持する 8.8%
- ・ 支持しない 81.8%
- ・ 分からない 6.6%
- ・ 回答しなかった 2.8%

1.2) NLD 党が 2023 年選挙に参加すべきか否か

- ・ 参加すべき 15.5%
- ・ 参加すべきでない 66.4%
- ・ 分からない 11.9%
- ・ 回答しなかった 6.2%

2. 国際社会からの対応について

- ・ 強い経済制裁を望む 57.2%
- ・ 特定目標の経済制裁を望む 20.1%
- ・ 経済制裁を望まない 10.8%
- ・ なんとも言えない 3.9%
- ・ 回答しなかったの 8.1%

3. NUG 支持の人が CDM や PDF などの手段を支持しているか?

3.1) NUG が発表した連邦制度を支持するか否か

- ・ 支持する 78.7%
- ・ 支持しない 7.7%
- ・ 分からない 8.5%
- ・ 回答しなかったのが 5.1%

3.2) 国民防衛隊(PDF)を支持するか否か

- ・ 支持する 78.2%
- ・ 支持しない 11.2%
- ・ 分からない 6.8%
- ・ 回答しなかった 3.8%

3.3) クーデターに対する市民的不服従運動(CDM)を支持するか否か

- ・ 支持する 79.6%
- ・ 支持しない 10.2%
- ・ 分からない 5.9%
- ・ 回答しなかった 4.2%

4. 連邦制、少数民族への理解などビルマ族からそれ以外の民族への考えやその逆の考え方について

回答者の割合は、

- ・ ビルマ族と答えた回答者 78.0%
- ・ カレン族と答えた回答者 3.6%
- ・ シャン族と答えた回答者 3.3%
- ・ チン族と答えた回答者 1.0%
- ・ カチン族と答えた回答者 0.9%
- ・ モン族と答えた回答者 2.0%
- ・ ラカイン族と答えた回答者 2.6%
- ・ その他と答えた回答者 6.9%
- ・ 回答しなかった 1.0%

4.1) NUG が発表した連邦制を支持するか否か(全体的場合)

- ・ 支持すると答えた 78.7%
- ・ 支持しないと答えた 7.7%
- ・ 分からないと答えた 8.5%
- ・ 回答しなかった 5.1%

4.2) NUG が発表した連邦制を支持するか否か(ビルマ族の場合)

- ・ 支持する 80%
- ・ 支持しない 8%

4.3) NUG が発表した連邦制を支持するか否か(少数民族の場合)

- ・ 支持する 75%
- ・ 支持しない 13%

4.4) NUG が発表した連邦制を支持するか否か(マルチレイシャルの場合)

- ・ 支持する 81%
- ・ 支持しない 9%

5. 支持政党別の意見

2015 年選挙で

- ・ 投票した 72.4%
- ・ 投票しなかった 24.3%
- ・ 回答しなかった 3.4%
- ・ NLD 党に投票した 65%

2020 年選挙で

- ・ 投票した 87.3%
- ・ 投票しなかった 11.6%
- ・ 回答しなかったの 1.1%
- ・ NLD 党に投票した 90%

6. クーデター後、生活の変化について

電気供給状況について

- ・ 頻繁に停電する 89.0%
- ・ 停電の頻度が以前と変わらない 3.7%
- ・ 分からない 1.9%
- ・ 回答しなかったの 4.8%

軍の攻撃を受け従来の定住地から離れた所にいるのかについて

- ・ はい 14.4%
- ・ いいえ 63.3%
- ・ 回答しなかった 22.3%

水の供給状況について

- ・ 断水が頻繁になった 34.0%
- ・ 断水の回数が変わりない 19.1%
- ・ よくなってきた 2.1%
- ・ 分からない 27.4%
- ・ 回答しなかった 17.4%

7. クーデターが妥当かどうかについて

- ・ 不当なので受け入れられない 83.9%
- ・ 不当だが受け入れた 4.3%
- ・ 妥当だと見て支持した 4.9%
- ・ 妥当だと思わないが支持した 3.8%
- ・ 回答しなかった 3.1%

8. 民主政府のリーダーや活動家の拘束について

- ・ 不当だと思う 85.3%
- ・ 妥当だと思う 6.9%
- ・ 分からない 5.3%
- ・ 回答しなかったが 2.5%

9. 国民統一政府 NUG への支持について

- ・ 支持する 77.9%
- ・ 支持しない 11.1%
- ・ 分からない 7.8%
- ・ 回答しなかった 3.2%

講演後、新町さんに「街中で国軍への批判などを口にすることは可能か？」と伺いましたが、ミャンマーではカフェやバーなどで政治について話すと密告される恐れがあり、よっぽど信頼できる仲間内でないと危険なんだそうです。

タイでのミャンマー避難民の人道支援活動

ミャンマーと国境を接する隣国タイでミャンマーからの避難民の支援活動に取り組む井本勝幸氏（日本経済大学特命教授・日本ミャンマー未来会議代表）にタイからオンラインで報告をいただきました。国軍による空爆や焼討ち、避難民のジャングルでの生活、タイ側の避難民キャンプの現状など、クーデター後のミャンマーの人々の置かれている悲惨な状況を伺いました。クーデター前から井本氏が行ってきた農業支援で培ったノウハウを生かして、避難民の食糧支援・生活支援に役立てる農業支援プロジェクトなど今後の展望についてもお話をいただきました。



井本勝幸氏

■村ごと空爆・焼討ちする国軍

国軍の地上軍の士気が下がっていて、国境地帯をほとんど少数民族勢力に取られてしまっています。地上戦で不利なため、国軍は撤退後に空爆を行い、多くの住民が負傷します。敵対する少数民族武装勢力やPDFが住民の手当てに人員を割かなくてはいけなくなるのを目的とした戦略をとっているようです。

タイへ逃れていた避難民が民政移管後に帰還して住んでいたカレン州のタイ国境に近いレイケイコー村も空爆されました。わたしたちがクーデター前に活動していた村でした。国軍は統治できないと判断するとテロリストだという位置づけで村ごと焼失させます。カレン州のタイからミャンマーに伸びているアジアハイウェイ1号線もたびたび攻撃され、交通が遮断されています。



■国境地帯ではウクライナのような惨状が拡がる

毎日のようにウクライナの惨状はご覧になっているかと思いますが、ミャンマーも同じような状況です。ヤンゴンと比較的落ち着いているとされていますが、敵対勢力が集まる国境地帯ではこのような状態が続いています。空爆では多くの方が亡くなり、負傷者はタイへ逃れて国立の病院で手当てを受けられます。ただし治療が終われば本国に帰らなくてははいけません。

■川で隔てられただけのタイ国境

タイとミャンマーは川で隔てられているだけなので歩いて国境を渡れます。戦闘が激しくなると多くの人々がタイ側へ退去します。タイ政府は難民条約を批准していないので、タイには難民はいないという建前になっていますが、情勢が安定するまでは一時的にタイに滞在してもよいとされ、軍が指定する場所に一時避難しています（指定場所以外には出られません）。わたしたちは彼らに対して食料や医薬品を支援していますが、それもタイ軍経由でないといけません。

戦闘が激しくなると避難民が押し寄せるといことが繰り返されています。状況が安定してミャンマー側に戻っても、空爆や戦闘が激しくなると避難民が押し寄せます。

■防空壕を掘る子どもたち

避難民は、ミャンマー側に帰還してもジャングルの中で掘って小屋のような家に住んでいます。生活物資すべてが不足しています。ミャンマーの仲間がこのように川を渡って支援物資を届けています。ジャングルでは洞穴や防空壕を子どもたちが中心になって作っています。わたしたちも越境してミャンマーに行ったときに空襲があると防空壕に入ります。子どもたちはこのような生活を強いられています。



ジャングルの中では校舎もありますが、不幸中の幸いで CDM（市民の不服従運動＝職場放棄）を行った公務員である学校の先生たちがいるので、青空教室ですが勉強を教えています。校舎を建てると空爆の標的にされてしまうので建てられません。

■義足・義手の若者たち

地雷や空爆の被害で失明したり、足や腕が吹き飛んだりして失った子たちがたくさんいます。タイ政府はリハビリ期間が終わるまで滞在許可を出していて、わたしたちも、義足や義手を扱う欧米企業と連携して、彼らが自ら義足や義手を作れるワークショップを開催しています。

PDF の子たちは若く、まだまだ成長期で、いったん義足を作っても、背が伸びるので作りかえなくてはなりません。しかも、あまりいいものを使うとメンテナンスが難しいので、自ら修理できる義足や義手が必要です。

■食糧安全保障

タイ側の避難民に農業支援をする取組みを進めています。つくった野菜などはミャンマーに食糧支援で送り、また換金して自分たちの現金収入にします。家畜も育てはじめています。また労働許可がおりるまでは、庭先でキノコハウスを建てて家賃を支払えるように支援しています。鶏が産む鶏卵も一部は自分たちの食料にして、余ったものは市場に出して現金化して生活費にしています。一番大事な主食の米用に 100 エーカーの農地、東京ドーム 10 個分借りています。

■PDF で負傷した若者の絵

PDF の戦闘員はまだ若く、多くは大学生や社会人です。負傷して戦闘にはもう参加できない子は、タイ側のセーフハウスで過ごしています。療養だけでは持て余すので絵を描いている子もいます。戦闘で家族を亡くした仲間の手形を組み合わせた絵には、お父さんとお母さんとビーチに行きたかったなどの思いが表現されていました。

今後もミャンマー国民に寄り添って、一日でもミャンマーに平和と安定が訪れるまで頑張っていきたいです。

井本 勝幸 氏 プロフィール

福岡市生まれ。東京農業大学、立正大学卒業。28 歳で出家。僧侶。2011 年からミャンマーの少数民族地域に入り、農業指導や政府と少数民族武装勢力との和平交渉に尽力。日本軍兵士の遺骨の収集・帰還にも取り組む。

報告集会「ミャンマーに平和と自由を」開催

ミャンマー民主化を支援する信州の会は、2023年1月29日、長野市内で、ミャンマーでの軍事クーデターから2年になるのを前に報告集会「ミャンマーに平和と自由を」を開催しました。オンラインを含め42人が参加しました。報告集会ではミャンマー出身の同窓生たちと支援に取り組んでいる信州大学の佐藤友則教授にコーディネーターを務めていただき、日本で暮らすミャンマー人民民主化活動家のウィンチョウさん、Justice Myanmarのミャンマー人Tさん、ミャンマーのヤンゴン市在住の映像プロデューサーの新町智哉さんらから、現在のミャンマー情勢について報告していただきました。現地から送られた避難生活が続けるミャンマー人の難民キャンプの映像などを交えて報告したウィンチョウさんは「いちばん怖いのはビルマ(ミャンマー)のことが忘れられること」と訴えました。集会の最後には、故郷ミャンマーから遠く離れた信州で農業に従事するミャンマー人青年4人が登壇して民主化への思いを語っていただきました。軍とPDF(国民防衛隊)との戦争が続いて、死者が増え続けていることに苦しんでいること。ミャンマーに平和が訪れてほしいという願い。そのためにできることをするという強い決意が示されました。

2023年1月30日
信濃毎日新聞

ミャンマー国軍がクーデターを起してから2月1日で2年となるのを前に、県内有志でつくる「ミャンマー民主

ミャンマーのこと 忘れないで 長野で有志の会集会 現状説明



現地の映像を見せながらミャンマーの現状を説明するウィンチョウさん＝29日、長野市

化を支援する信州の会」は29日、ミャンマー市民への連帯を示す集会を長野市内で開いた。日本で暮らすミャンマー人や現地の住民が、同国の現状などを説明。オンラインを含め、42人が耳を傾けた。

同国軍は2021年2月、クーデターを起して全権を握った。集会に参加した都内野駅前と松本市の松本駅前では街頭活動を行う。

のミャンマー人男性は、人権団体「政治犯支援協会」のまとめで、軍の弾圧による死者は約2900人に上り、1万7千人ほどが拘束されていると説明。今も多くの住民が殺されているとした。

1989年に日本に亡命したウィンチョウさん(57)は、東京は、現地で避難生活を送る住民の映像などを見せながら、「一番怖いのはビルマ(ミャンマー)のことが忘れられること」と訴えた。ミャンマー在住の映像プロデューサー新町智哉さんもオンラインで参加した。

同会は21年7月に発足。県内外のミャンマー人らと連携し、募金活動などを行っている。代表で善光寺白蓮坊の若麻績敏隆住職(64)は「ミャンマーが今も想像以上に厳しい状況にあると分かった。支援を続けていきたい」と話した。

同会は2月1日、長野市の長野駅前と松本市の松本駅前で行う。

一番怖いのはミャンマーのことが忘れられること

亡命ミャンマー人活動家 ウィンチョウさん

ミャンマー支援募金・ミャンマーカレーチャリティ寄付報告

アジア子ども交流支援センター(長野市)が、在日ミャンマー人の民主派活動家ウィンチョウさんを通して、ミャンマー支援募金 80 万円をミャンマー国内の支援団体に少額ずつ寄付を送金します。「デーペーイン戦争難民支援グループ」から届いた感謝状をご紹介します。避難民となった方々への食糧・衣料・医薬品などに使われます。



ဒီပဲယင်းမြို့နယ် စစ်ရှောင် ထောက်ပံ့ရေး

ဂုဏ်ပြုမှတ်တမ်းလွှာ

ဒီပဲယင်းမြို့နယ်အတွင်းရှိကျေးရွာများတွင် စစ်ဘေးကြောင့် ဖြစ်ပေါ်လျှက်ရှိသည့် စစ်ဘေးရှောင်ပြည်သူများ နှင့် မီးဘေးသင့်ပြည်သူများ ၏ အစားအသောက်၊ အဝတ်အထည် နှင့် ဆေးဝါး အခက်အခဲ အမျိုးမျိုးကို ကူညီထောက်ပံ့ရာတွင်တစ်တစ်အား အဖြစ်

အလှူငွေ (၁,၀၀၀,၀၀၀) ကျပ် ပါဝင်လှူဒါန်းပေးပါသော

Shinshu Supporting Group for Democratization in

Myanmar အသင်း (Nagano Ken, JP) အသင်း အား

ဒီပဲယင်းမြို့နယ်စစ်ရှောင်ထောက်ပံ့ရေးအဖွဲ့ မှ

စစ်ဘေးရှောင်နှင့်မီးဘေးသင့် ပြည်သူများ၏ ကိုယ်စား ဂုဏ်ပြု မှတ်တမ်းတင်အပ်ပါသည်။



နေ့စွဲ ၃၀/၀၁/၂၀၂၁။

ဒီပဲယင်းမြို့နယ်စစ်ရှောင်ထောက်ပံ့ရေး

【日本語訳】

デーペーイン戦争難民支援からの感謝状

デーペーイン町にいる戦争難民や火災避難者達の為食べ物や服や薬など色々の支援に 100 万チャットを寄付してくれたミャンマーの民主化を支援する信州の会(長野県)にデーペーインの皆さんの代わりにデーペーイン戦争難民支援グループから感謝致します。

◇在日ミャンマー人の方に翻訳をお願いしました。

ミャンマー現地の支援団体への送金

クーデター後、国軍による監視も強まり、日本国内で集めた支援金を直接ミャンマー国内の支援団体へ送ることは難しくなっています。外貨規制も強化され現地通貨チャットでの受取のみに制限されています。信州の会では、アジア子ども交流支援センターとウィンチョウさんを通じてミャンマーへ支援金を送金していきます。結果は随時ご報告していきます。

ミャンマーカレーを食べて応援しよう！



たくさんの方にご購入いただいた
ミャンマーチキンカレー「チェッターヒン」
豚肉の「ウェッターヒン」も加わって
ひきつづきチャリティ販売をおこなっています。
ご希望の方は、ミャンマー民主化を支援する信州の会・事務局までご連絡ください。
10/29 開催の「ミャンマー交流フェスタ in 信州」
でもチャリティ販売ブースを出店します。

鶏肉の「チェッターヒン」・豚肉の「ウェッターヒン」
「極辛」と「マイルド」の2種類
各 1100円

2023年8月1日
信濃毎日新聞朝刊

衣料品の受付は
終了しています



ミャンマー訪問の際に撮影した写真を眺める青木さん＝7月21日、長野市

ミャンマーで国軍によるクーデターが起きて1日で2年半。現地の子どもに文房具を贈ってきた長野市の「アジア子ども交流支援センター」が、寒くなる季節を前に現地の山村部に暮らす住民に古着を送る活動を開始した。文房具を贈り始めてから約20年がたち、国が豊かになり支援の在り方を見直すとしていた矢先のクーデター。経済が後退する懸念が強まる中、代表理事の青木正彦さん(70)は古着を送るを得ない状況を嘆きつつ「ミャンマーを忘れない」というメッセージに込められている。

【関連記事6面】

20年間文房具贈ってきた長野の団体

クーデター2年半 貧困へ逆戻り懸念

青木さんによると、ミャンマーの山村部では国軍の空爆や攻撃から逃れるために住民が着の身着のまま山奥に身を潜めているという。10月ごろになると朝晩は肌寒くなるため、隣国タイで暮らすミャンマー人支援者と相談して古着を送ることを決めた。

青木さんが初めてミャンマーを訪れたのは2001年。関心を持っていた植物ケナフを観察するためだった。10人余で最大都市ヤンゴンから約400キロ北にある村を訪問。招待された学校はヤシの葉でふいた粗末な造りで紙は不足し、子どもたちは石版をノート代わりにしていた。

翌年、現地で鉛筆やノートなどの支援を始めた。現地で購入した文房具を貧しい子どもたちに手渡しするため「ホテルのロビーで2千人分を袋詰めし、観光する余裕もなかった。新型コロナウイルスの感染が拡大する前の19年まで毎年訪問。15年ほど前、かつて文房具を受け取った若い僧侶から日本語で「こんにちは、ありがとう」と話しかけられたことが思い出深い。

21年2月、国軍によるクー

ミャンマー支援今は古着を

として「残念で、切ない」とない訴える。

クーデター後、「交流支援センター」は募金を呼びかけ上着、スポンなどを募る。性別は問わず、子どもから大人まで幅広く募るが、劣化が著しい服や下着、靴下は受け付けられない。ミャンマーへの輸送費がなかないため、送料(千円以上)の負担をお願いする。問い合わせは同センター(026-295-9815)へ。

募集は9月末まで。洗濯済みのTシャツやボロシャツ、上着、スポンなどを募る。性別は問わず、子どもから大人まで幅広く募るが、劣化が著しい服や下着、靴下は受け付けられない。ミャンマーへの輸送費がなかなため、送料(千円以上)の負担をお願いする。問い合わせは同センター(026-295-9815)へ。

クーデター以前からミャンマーの子どもたちに文房具などを支援してきた「アジア子ども交流支援センター」(長野市)が、ミャンマーに衣服を送る支援に取り組みました。センターでは、20年以上にわたって、長野市内の個人や学校、企業などから寄付を募り、ノートや鉛筆、消しゴムといった学用品やボールなどを現地の学校に贈る活動を続け、2001年からはミャンマーを訪問し、現地の学校などと交流を深めてきました。クーデター後、支援してきた子どもたちから「街頭に出て抗議活動に参加している」という連絡もあったそうです。

紛争地の人の心身温める衣服を



選手のユニホーム ミャンマーへ届け AC長野運営会社が寄贈

サッカーJ3・AC長野パルセイロの運営会社が28日、軍事クーデターが起きたミャンマーに古着を届ける活動をしている長野市の「アジア子ども交流支援センター」にユニホームなどを贈った。今村俊明社長(61)＝写真左＝がセンターを訪れ、代表理事の青木正彦さん(70)に渡した。

同社が贈ったのはAC長野パルセイロ・レディースの選手が着ていたユニホームや練習着など200着。今村さんは「スポーツを通じて平和を願う活動に協力したい」とあいさつ。青木さんは「ミャンマーはサッカーが盛ん。喜んでもらえる」と述べた。

センターは約20年にわたって現地の子どもに文房具を送ってきた。クーデター後、山村部では軍の攻撃から逃れるため住民が山奥に避難しているといい、古着を届けることを決めた。これまでに200人超から計1.5トンの古着が寄せられ、計約800着を送った。寄贈の受け付けは今月末まで。

ミャンマー交流フェスタ in 信州にも参加チャリティ販売・写真展

アジア子ども交流支援センターは、10月29日に長野市・表参道セントラルスクエアで開催される「ミャンマーフェスタ in 信州」にも参加してミャンマーカレーなどのチャリティ販売や写真展示を行う予定です。

アジア子ども交流支援センター

住所：長野市若槻東条 515-3

TEL：026-295-9815

メール：aiscc.peace@gmail.com

2023年9月29日
信濃毎日新聞朝刊

お知らせ 10/29 ミャンマー交流フェスタ in 信州

会場 ながの表参道セントラルスクエア **時間** 11:00～15:00

ミャンマー交流フェスタ in 信州実行委員会は 10 月 29 日に、「ミャンマー交流フェスタ in 信州」をながの表参道セントラル・スクエア(長野市)で開催します。ミャンマーの音楽やダンス、食文化に親しみながら、ミャンマーの置かれている現状について多くの市民の方に知っていただきたいという願いから企画されました。県内外からミャンマー人の方が参加します。ぜひご参加ください。



写真：市民タイムス

安曇野市内で農業の技能実習に励むミャンマー出身の青年たちが結成したサッカーチーム「AZUMI LION FC」のメンバーも参加して、ステージで、ミャンマーの「けまり」を披露してくれます。

長野で10月「ミャンマー交流フェスタ」



民主化支援する県内有志初企画

県内有志でつくる「ミャンマー民主化を支援する信州の会」は8日、第2回総会を長野市で開いた。オンラインを含め約40人が参加。現地で支援活動に当たる2人が講演し、10月29日に市内で「ミャンマー交流フェスタ in 信州」を初めて開くことも決めた。

同会は国軍の実権掌握が続くミャンマーの民主化を求める市民を支援しようと2021年7月に設立。この日は最大都市ヤンゴン在住の映像プロデューサー・新町智哉さん44が、デモ隊に向けて国軍が催涙弾を投げる映像を上映し、現地住民の多くは日本からの支援を信じているとして「自分ができる関わりを

歌や料理紹介 問題考えるきっかけに

「続けてほしい」と訴えた。一般社団法人日本ミャンマー未来会議代表で日本経済大特命教授の井本勝幸さんは、空爆を受けた同国避難民らの人道支援を現地で続ける。「一日も早い平和と安定のため、支援の姿勢を変えてはならない」と強調した。

フェスタは同国の食や芸術などの文化交流をきっかけに、民主化を願う国民民について幅広い市民が知り、考える機会にしよう企画。午前11時から市内のセントラルスクエアで開き、信州の会が県内外の在日ミャンマー人を招いて歌や踊り、ミャンマー料理などを紹介してもらう。日本人団体による和太鼓の演奏、ミャンマーの表情を撮影した写真展なども予定している。

■■■長野市民新聞 9/17・10/12 にミャンマーフェスタ in 信州の広告を掲載■■■

ミャンマー交流フェスタ in 信州

長野県で初開催!

日時 **10/29(日)**
11:00▶15:00

会場 **長野市・ながの表参道 セントラルスクエア**
(旧長野五輪表彰会場) 長野市西後町1580
TEL.026-217-2546

入場無料 カンパ大歓迎
ブースの食品、食事、グッズなどにカンパをお願いします!

ステージ

- ミャンマー人の歌と踊り
- 善光寺木遣り保存会
- 和太鼓(七福太鼓)
- ダンススタジオブロードウェイ
- バンブーダンス
- ミャンマー「けまり」チンロン
- ミャンマー人からのアピール

ひろば

- ミャンマー料理の試食
- ミャンマーコーヒー・紅茶
- ミャンマーカレー
- ミャンマー雑貨、衣装
- パネル展、写真展、映画上映
- 子どもひろば
- 在日ミャンマー人向け相談所

日本とミャンマーは経済や文化、政治などの面で大きなつながりがあります。ミャンマーでは2021年2月、国軍が軍事クーデターを起こし、民主化を求める人々との間で紛争が続いていますが、クーデター直後と比べてミャンマーへの関心が薄くなっています。私たちは今、「ミャンマーを忘れない」を合言葉に活動を行っています。

「ミャンマー交流フェスタ in 信州」は、誰でも気軽に参加できるフェスティバルです。ぜひお誘い合ってご来場ください!

■主催: ミャンマー交流フェスタ in 信州実行委員会
■後援: 長野県、長野市
■参加団体: ミャンマー民主化を支援する信州の会、在日ミャンマーコミュニティなど

お問い合わせ先:
長野市県町 532-3 県労働会館 TEL.026-234-2116

長野県で初開催!

入場
無料

ミャンマー 交流フェスタ in信州

イベント
たくさん!



カンパも
ご協力
お願いします!



10月29日(日)
11:00-15:00

長野市・ながの表参道
セントラルスクエア

いろんなイベントでミャンマーを応援! Fight!

ステージ

- ミャンマーの歌と踊り
- 善光寺木遣り保存会
- 和太鼓 (七福太鼓)
- ダンススタジオブロードウェイ
- バンブーダンス
- ミャンマーけまり「チンロン」
- ミャンマー人からのアピール
- Yangonかるた

ひろば

- ミャンマー料理
- ミャンマーコーヒー・紅茶
- ミャンマーカレー
- ミャンマー雑貨・衣装
- パネル展・写真展・映画上映
- 子どもひろば
- 在日ミャンマー人向け相談ブース

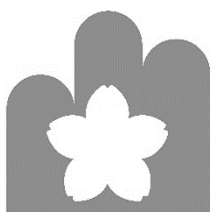
ミャンマー交流フェスタin信州実行委員会

参加団体: ミャンマー民主化を支援する信州の会 / 在日ミャンマーコミュニティなど

後援: 長野県・長野市

連絡先: 長野市県町532-3 県労働会館

TEL.026-234-2116



Shinshu Supporting Group
for Democratization
in Myanmar

信州の会
Facebook



ミャンマー民主化を支援する信州の会

Shinshu Supporting Group for Democratization in Myanmar

မြန်မာနိုင်ငံဒီမိုကရေစီထွန်းကားရေးအထောက်အကူပြုရှင်းရှူးအသင်း

〒380-0838 長野市県町 532-3 県労働会館 3 階

電話: 026-234-2116 メール: kenrousoakaigi@r-nagano.com